



一般社団法人地球温暖化防止全国ネット  
理事長

## 長谷川 公一

2018年は、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)や地域地球温暖化防止活動推進センターの役割などを定めた地球温暖化対策推進法(温対法)が成立して、ちょうど20年です。京都議定書からパリ協定へ、世界は気温上昇を2度以下に抑えるために、政府も自治体も、企業も学校も地域社会も、真剣な取組を加速しています。

低炭素杯2018は、折しも平昌オリンピックの熱戦の真っ只中、2月15日に開かれました。低炭素杯2014もソチ・オリンピックの熱戦の最中でした。ザギトワ選手やメドベージェワ選手、宮原知子選手らが妙技を見せたフィギュアスケートの女子フリーの演技時間は4分間。低炭素杯のプレゼンテーションとちょうど同じ時間です(男子は4分30秒)。日経ホールでも30組のファイナリストが、ホットでクールな4分間のプレゼンテーションを競い合いました。それぞれ自己ベスト更新の見事な出来栄でした。

グランプリに輝いた岩手県立遠野緑峰高校の「ホップ和紙開発プロジェクト」は、地域の特産品ホップの廃棄されてきた蔓の繊維から和紙を作り、卒業証書や名刺に活用する、遠野物語をモチーフとした行灯を製作するというものです。

「砂地にみどりを」という花王鹿島工場の社員全員が砂地に記念植樹を行い、社員の森がやがて鬱蒼とした地域の森になったという35年あまりの取り組みも大変感動的でした(オルタナ最優秀ストーリー賞を受賞)。

30のファイナリストのプレゼンテーションには、世界中の政治家やビジネス・パーソンへのヒントが満ちていました。

低炭素杯 Low Carbon Cup という全国的なコンペティションがあるのはわが国だけです。しかもすでに8回。前身の地球温暖化防止一村一品全国大会から数えると11回も開催しています。

日本が世界に誇る低炭素杯。第9回の「低炭素杯2019」は、いよいよ、あなたの出番です。

「低炭素杯2019」のファイナル・ステージでは是非お目にかかりましょう。地域に根を下ろしたあなたの、「低炭素ファースト」＝「地球ファースト」の取り組みを世界中に発信してください。



